



マッシー川口の
from New York from New York from New York

from New York

「ネットで子供を売るなんて?!」の巻

ハロー！ アメリカでたいていのことには慣れっこの私も、このニュースにはタマゲたね！ 産まれて6か月の双子の黒人のベビーちゃんが、インターネットで二重に売られた！って話よ。売られたというのはいささか語弊があるかもしれないけど、産みの母親は養子縁組みブローカーの「ケアリングハート・アダプション」が運営するサイトに広告を出し、双子の女の子のベリンダちゃんとキンパリーちゃん（元の名：キヤラ、キアラ）をカリフォルニアに住むアメリカ人のリチャード&ピッキー夫妻に、6,000ドル（日本円で約70万円）と引き替えに渡した（=売った）わけよ（この金額を聞くと命ってこれだけ？って悩んでしまう）。ところがその2か月後、産みの親は子供に最後のお別れがしたいと、いったん自分たちのところに戻した直後、同じブローカーを通して今度はイギリス人のアラン&ジュディス夫妻に1万2,000ドル（日本円で約140万円）で養子縁組の法律がゆるいアーカンソー州で譲り渡し、彼らは英国に戻り子供を育てていた。アメリカのメディアにも2組の両親が登場し、テレビ討論では両者とも自分たちが真の親であると主張し合っているところへ、産みの母親まで取り戻したいなんて言い出し、英米の国境を越えて争ってるわけ。FBIも捜査中よ。イギリス人夫婦は絶対に誰にも渡さないという強い構えだし、アメリカ人夫妻も取り返してみせる！と強気の姿勢。イギリスではこういうプライベートな養子縁組は法律違反というし、いったいこの子達はどうなるの？現在は英国の福祉センターが預かっているらしいけど。 ; ;)



e-mail : masshyk@hotmail.com

新聞やウェブサイトの記事に、かわいいこの双子の女の子がピンクのおしゃぶりをくわえて仲良く映っているのを見るたびに胸が痛むわ。産みの親が生きているのに養子に出すなんてよほどの事情だとは察するけど、親に捨てられ、まるでモノみたいに今日はアメリカ、明日はイギリスと連れて行かれるベビーたちのかなしい運命を思うとかわいそうで涙が出るよ。需要と供給の人間の欲望の果てにインターネット上の取引に赤ん坊が登場するとは！想像もなかった。だけど、こんなこと許せない！！と簡単には言えないよね。だって、譲りたい人がいて求める人がいて、それに宣伝媒体として、世界中で見られるインターネットというものが存在するわけだから、まさに渡りに船だものね。これも私たち人間が造ったもの。このサイトだって、ブローカーが運営しているから違法ではないしね。
Yahoo! のビジネス&エコノミーのなかのショッピングサービスの1つとして「Children」(子供)のセクションがあるのだけれど、ここには養子のエージェントが130以上もある!! アメリカでは年に6万件もの養子縁組が行われているの。

カワグチ マサヨ

「NY在住のフリージャーナリスト。95年に渡米し、日本での取材番組のキャリアを生かして、テレビやラジオ、インターネットにNYからレポートを発信している。最近、日本のニュース番組の取材コーディネーターとしても活躍。」
Jump masshy.com



別に養子がいけないうって言うわけじゃないのよ。逆に母親が子供を殺すという最近の陰惨な事件などを見たら、世界中の親のいない子供たちを子供が欲しい里親が大切に育てるなら、それは素晴らしいことだと思ってる。アメリカにいると養子の話は身近な話。「うちは子供ができないからアダプションしようと思ってるの」とか、「2人目が欲しくて人工受精もトライしたけれど、あきらめてアダプションにしたわ」などなど。キリスト教を背景とする影響なのか、アメリカではどうやら「裕福な人たちは貧乏な人々を助ける義務がある」的な発想がメジャーなようで、生活に余裕のあるカップルが子供がいない、いないにかかわらず、養子縁組をするというのは想像以上に多いのよ。デパートやモール(ショッピングセンター)のレストラン、日曜日の教会などで白人のママが黒人の娘や髪の毛の黒いアジア人の幼い息子の手をひいているなんて日常茶飯事。アジア人やユダヤ人は勤勉なので、養子には人気が高いんだって。

15年前に初めて私がアメリカを訪れた際にシアトルで出会った白人の家族が、3人の子供のうち2人の息子は白人で1人娘が黒人だった。当時の私は白人の両親から黒人が産まれることもあるのだろうか、などと妙なことを考えたけど、養子だと教えられて納得したことを思い出すわ。アメリカでは養子は子供をゲットするためのごく自然で合理的な方法なのね。最近ではレズビアン

やゲイのカップルが養子ももらって育てるケースも珍しくないし、その場合、いつ子供に本当のことを言うのが妥当かというような議論も展開されているの。養子が欲しい人はできるだけ小さいうち、たとえば3か月ぐらいいまでに引き取るのが理想。最近では他人のお腹を借りて産んでもらう医学的方法も病院で行われているし、そういうエージェントもある。お腹を貸した女性が産んだ後に、気が変わって産んだ赤ちゃんを渡さなくて裁判ざたになるのもよくある話。以前、卵子をネットで売って問題になったけれど、今だって精子や卵子をネットで取引しているのは周知の事実。バイオテック企業が人間の皮膚を培養して手のひらサイズで1,000ドルで売っていたり、クローンで培養された鼻とか耳が売られている現代に、いつそれがネット上に出現してもおかしくないよ。今月、不妊のためにクローン人間を造ることも始まったというニュースを見たけど、いつまで御法度としておけるのかしら？

21世紀はまだ始まったばかりなのに、課題は無限に広がるね。ではでは、シーユーネクストマンスねー。 マッシー：)

今月の関連サイトはココ！

- こんなにあるアダプション・エージェンシー
Jump dir.yahoo.com/Business_and_Economy/Shopping_and_Services/Children/Adoption/Adoption_Agencies/
- このサイトで広告が出たのとはいわれている
Jump buysellbid.com
- ABCニュースはここで
Jump more.abcnews.go.com/sections/world/dailynews/britainoin017_adoption.html

Illustration : Kido Satoko





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp